

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
専門学校麻生医療福祉 &観光カレッジ		平成8年3月4日	富田 博之		〒804-0092 福岡県北九州市戸畑区小芝3-3-1 (電話) 093-882-0001				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999				
目的	診療報酬の医科・歯科・調剤・介護の医療事務資格を取得し、医療現場における幅広い専門知識を身に付ける。病院・クリニック・調剤薬局・福祉施設等で生涯に渡って活躍し続ける人材を育成する。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
商業実務	商業実務専門課程		医事スペシャリスト科		平成22年文部科学省告示第153号		—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
2	昼間		1825	990	645	250	0	0	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
80		41		2		7		9	
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月30日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度、確認テスト等の総合評価を行う。評定は、S・A・B・C・Dの5ランク				
長期休み	■夏季:8月4日～8月31日 ■冬季:12月22日～1月8日 ■春季:3月6日～4月4日			卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.各学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度				
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人、保護者への電話連絡や面談等を行う			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動等 ■サークル活動: 有				
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院、診療所、調剤薬局等の医療機関 ■就職率 <sup>※1</sup> : 90.9 % ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 86.9 % ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)			主な資格・検定等	診療報酬請求事務能力認定試験(医科) 医科医療事務検定2級・3級 医療事務技能審査試験(メディカルクラーク医科) 歯科医療事務管理士 調剤事務管理士 介護事務管理士 MOS Excel・PowerPoint サーフティファイWord検定3級				
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成28年4月1日時点において 在学者 43名 平成29年3月31日時点において 在学者 42名 ■中途退学の主な理由 経済的困難 ■中退防止のための取組 適性検査の実施、検査結果による面談 スクールカウンセラーの配置 クラス担任による定期ガイダンスや三者面談の実施								
ホームページ	<a href="http://www.asojuku.ac.jp/amkc/">http://www.asojuku.ac.jp/amkc/</a>								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また現場実習を通じ、医療現場における実践的な技術を習得するとともに、医療業界の動向や求められる知識レベルを把握するため、医療機関や検定試験主催団体等との連携を図ることで、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。さらに卒業生の就職先である企業に対し、お客様アンケートを実施したりすることにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことにより得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。

医療現場や関連団体の意見や要請等を把握・分析し、カリキュラム全般ならびに授業内容、方法、教員研修等への活用とする位置づけとしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
野城 康成	一般社団法人 専門士検定協会 理事長	2017.4.1～2018.3.31	①
大郷 直美	医療法人 おおごう会 理事	2017.4.1～2018.3.31	③
五十嵐 比奈子	専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ 校長代行	2017.4.1～2018.3.31	
幸田 紀子	専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ 医療事務系リーダー	2017.4.1～2018.3.31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

2回

(開催日時)

第1回 平成28年 6月16日 16:00～17:15

第2回 平成28年11月10日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

社会人基礎力向上を目的に、学生の貧乏教育・キャリア教育を充実させるため、体験型学習を強化し実践力を磨くカリキュラムに改善する。

1.ケアコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ(科目追加):他者に関わる経験を積み、自己発信力、傾聴力、気付き力、積極性向上を図る

2.医療業界研究(科目追加):地域包括医療、職業観、倫理観などの調べ学習

3.グローバルコミュニケーション(科目変更):医療機関におけるコミュニケーションツールとして手話や医療英語を学ぶ

4.実践行動学(科目変更):学校生活の目標設定、自己成長の振り返り、自立のための意欲や意識の向上を図る

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

病院等の事務職に広く必要とされる患者さまとのコミュニケーション能力や医療事務知識の実務適応能力の確認を行うことを目的に、医療事務職として医療機関での現場実習を体験させ、実務レベルの技術を身に付ける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

効果的な実習を実現するため、学生の実習目標を定め、企業等の実習指導者と能力向上の要望を確認した上で実習を行う。実習期間中、学生及び実習指導者とのヒアリングを行い、学生の能力向上が効果的にできるよう助言を実施する。実習終了後、医療機関担当者より本校指定の評価表にて評価をいただく。

(3) 具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
医療事務現場実習Ⅰ	現場の雰囲気や実際の業務を体験し、医療事務員として必要な接遇や医療事務の知識・技術、コミュニケーションを学ぶ	新中間病院、JR九州病院、平田クリニック、小嶺江藤病院、蛸クリニック、まつなが医院 とくなが小児科クリニック、佐々木病院 市立八幡病院、片山整形外科医院 永犬丸野見山皮膚科医院 正和中央病院、戸畑けんわ病院 株式会社メディカル・プラネット 計19施設
医療事務現場実習Ⅱ	1年次の経験を踏まえ、現場の雰囲気や実際の業務を体験し、より実践的な医療従事者として必要な接遇や専門知識・技術、コミュニケーションを習得する	戸畑共立病院、戸畑けんわ病院、有限会社医療事務研究会、松井病院 花田歯科医院、株式会社タカサキ ありよし小児科クリニック 株式会社サンキュードラッグ 鍋島眼科医院 計11施設

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

・北九州地域ケア交流会主催 医療・福祉従事者のためのコミュニケーション研修

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

・一般社団法人職業教育・キャリア教育財団主催 専修学校教員認定制度にかかる新任教員研修

・麻生塾における学内研修

1. 情報セキュリティ 2. アカデミックハラスメント 3. コンプライアンス 4. カリキュラム作成 5. インストラクションデザイン

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

・医療法人博愛会 頤田病院における在宅医療研修

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

・一般社団法人職業教育・キャリア教育財団主催 専修学校教員認定制度にかかる新任教員研修

・麻生塾における学内研修

1. 情報セキュリティ 2. メンタルヘルス 3. 発達障がい

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者の参画を得て、包括的・客観的に判定する事で、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また情報を公表する事により開かれた学校作りを行う。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。
(3) 教育活動	・学科の教育目的、育人人材像に向けたカリキュラムの作成等の取組をしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取組をしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取組をしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取組をしているか

(4)学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。
(5)学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6)教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8)財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。
(9)法令等の遵守	・学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為にシステムが構築がされているか。
(10)社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取組が推進されているか。
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

平成28年度学校関係者評価委員会にて、学内外実習時の安全対策規定の文書化をご指摘いただいたため、直ちに明文化し整備を行った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
青木 圭子	福岡県立折尾高等学校 校長	2016.4.1～2018.3.31	高等学校教員
安部 久美子	ホテル・フライダル科在校生保護者	2017.4.1～2019.3.31	保護者
井手 國昭	三六まちづくり協議会 会長	2016.4.1～2018.3.31	地域住民
伊藤 美穂	ホテル・フライダル科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
今仁 優衣	子ども福祉科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
上田 恵理奈	医療秘書科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
大郷 直美	医療法人おおごう会 大郷内科クリニック 理事	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
沖田 由美子	レンタルブティック&ウエディング ウィズワタベ 代表取締役	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
北島 武	新門司フェリーサービス株式会社 営業次長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
城田 浩太郎	介護福祉科卒業生	2016.4.1～2018.3.31	卒業生
竹之内 豊文	株式会社リーガロイヤルホテル小倉 グループサービスチーム担当部長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
能美 和則	学校法人青山幼稚園 理事長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
疋田 賢吾	医療法人おおごう会 介護事業部長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者
山下 照彦	株式会社スターフライヤー 総務人事部部長	2016.4.1～2018.3.31	企業・業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・8月

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供する事で、学校運営の透明性を図ると共に、本校に対する理解を深めて頂く事を目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取り組み
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験、内定実績
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職進学サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事
(6)学生の生活支援	学生寮、国際交流センター
(7)学生納付金・修学支援	募集要項、(株)麻生飯塚病院奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/>(学校法人麻生塾ホームページ)

<http://www.asojuku.ac.jp/amkc/>(専門学校麻生医療福祉&観光カレッジホームページ)

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医事スペシャリスト学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			医療事務医科基礎	診療報酬点数算定の基礎知識を学ぶ	1前	45		○	△		○		○		
○			医療事務医科演習	医科レセプト作成の知識を学ぶ	1前	60		○	△		○		○		
○			医療事務医科総合演習	カルテを用いた点数算定及びレセプト作成の総合演習を行う	1後	120		○	△		○		○		
○			医療事務医科応用	診療報酬の算定、レセプト作成を行う（応用編）	2前	75		○	△		○		○		
○			医療事務医科実践	カルテに記載されている内容を総合的に読み取り、点数算定、負担金計算、レセプト作成を行う	2後	45		○	△		○		○		
○			医療保険制度	医療従事者として必要な法律及び、医療事務の仕事内容を学ぶ	1前	15		○			○		○		
○			医事関連法規	診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題対策授業	1後	30		○			○		○		
○			医科点数表の解釈基礎	診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題対策授業	1前	15		○			○		○		
○			医科点数表の解釈実務	診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題対策授業	1後	30		○			○		○		
○			医療秘書実務	病院の役割を知り、医療事務員に求められるスキルや知識を学ぶ	1前	15		○			○		○		
○			病院事務実践	病院の現場で必要な専門用語やカルテを読み取る知識、各書類の様式や保険手続きの知識を学ぶ	2後	15		○	△		○		○		

○		ケアサポート 実践	医療福祉の現場において、実践的な経験を し、医療従事者として求められる知識や技 術、心構えを学ぶ	2 後	15		△	○	○	○								
○		ケアサポート 演習	高齢者など医療機関で関わる対象者の理 解、援助や介助方法を実践的に学ぶ	2 前	15		△	○	○	○								
○		医事会計シス テムⅠ	電子カルテ、医事会計コンピュータの知 識、診療内容入力を学ぶ	1 後	15		△	○	○	○								
○		医事会計シス テムⅡ	電子カルテ、医事会計コンピュータの知 識、診療内容入力を学ぶ	2 後	15		△	○	○	○								
○		基礎医学Ⅰ	体のメカニズムや病気のしくみとその治療 等を学ぶ	1 前	15		○		○									○
○		基礎医学Ⅱ	体のメカニズムや病気のしくみとその治療 等を学ぶ	1 後	30		○		○									○
○		基礎医学Ⅲ	体のメカニズムや病気のしくみとその治療 等を学ぶ	2 前	15		○		○									○
○		基礎医学Ⅳ	体のメカニズムや病気のしくみとその治療 等を学ぶ	2 後	15		○		○									○
○		メディカルク ラーク(実技 Ⅱ・学科)	医療事務技能審査試験(メディカルーク(医 科))受験(実技・学科)に向けて取り組み を行う	2 前	30		○	△	○	○								
○		レセプト点検 Ⅰ	診療報酬の算定に即したレセプト点検の仕 方を学ぶ	2 前	15		○	△	○	○								
○		レセプト点検 Ⅱ	レセプト点検の技術、診療報酬請求の仕方 など実務に即した内容を学ぶ	2 後	15		○	△	○	○								
○		メディカルク ラーク(実技 Ⅰ)	医療事務技能審査試験(メディカルーク(医 科))受験(実技・学科)に向けて取り組み を行う	2 前	15		○	△	○	○								○
○		院内接遇	医療機関で求められる受付での患者対応の 仕方や接遇について習慣する	2 前	15		○		○									○
○		院内接遇演習	受付での患者対応の仕方や接遇について実 践的に学ぶ	2 後	15		△	○	○	○								○



○		ケアコミュニケーションⅠ	医療福祉の現場において、実践的な経験をし、医療従事者として求められる知識や技術、心構えを学ぶ	1前	30		△	○	○	○	○	○	○
○		ケアコミュニケーションⅡ	医療福祉の現場において、実践的な経験をし、医療従事者として求められる知識や技術、心構えを学ぶ	1後	30		△	○	○	○	○	○	○
○		ケアコミュニケーションⅢ	医療福祉の現場において、実践的な経験をし、医療従事者として求められる知識や技術、心構えを学ぶ	2前	30		△	○	○	○	○	○	○
○		GCBⅠ	感謝心、思いやりの大切さについて学び、自分のあり方を考えさせる	1前	15		○		○		○		
○		GCBⅡ	志の教育を行う	2前	15		○		○		○		
○		実践行動学Ⅰ	学校生活のスタートラインに立っている時期に過去の自分を振り返り、現在・近未来の自分について考えることを通して短期目標を設定する	1前	15		△	○		○		○	
○		実践行動学Ⅱ	入学から現在までを振り返り、自らの成長の足跡を確認し、自己の潜在的な能力や可能性を引き出す考え方や意識の持ち方に気づき、自立に向けた技術・方策を考える	1後	15		△	○		○		○	
○		実践行動学Ⅲ	これまで学校で学んだことをベースに、自信や希望を持って次のステップ(就職)に望んでいくための意欲・意識を養う	2後	15		△	○		○		○	
○		社会教養Ⅰ	社会が求める人材や働き方を知り、就職意識を高め、自己分析を行う	1後	30		△	○		○		○	
○		社会教養Ⅱ	就職に必要な知識や力を身につける(面接・履歴書指導)	2前	15		△	○		○		○	
○		社会教養Ⅲ	就職に必要な知識や力を身につける(面接・履歴書指導)	2後	30		△	○		○		○	
○		卒業論文	「自ら考え・自ら学ぶ」をテーマに各個人が論文作成に取り組む	2後	45		△	○		○		○	
○		医療業界研究	医療福祉業界において、それぞれの医療機関や施設の特徴や役割を調べ発表し、情報を共有する	2後	30		△	○		○		○	
○		見学実習指導	見学実習に対する指導、動機付け及び実習後の振り返りを行う	1後	30		△	○		○		○	



○		実習指導Ⅰ	実習前後の指導。実習の心構え、目標設定や実習の振り返り、発表を行う	1 後	30		△	○	○	○				
○		実習指導Ⅱ	実習前後の指導。実習の心構え、目標設定や実習の振り返り、発表を行う	2 前	30		△	○	○	○				
○		医療事務現場実習Ⅰ	現場の雰囲気や実際の業務を体験し、医療事務員として必要な接遇や医療事務の知識・技術、コミュニケーションを学ぶ	1 後	80				○	○	○	○		
○		医療事務現場実習Ⅱ	1年次の経験を踏まえ、現場の雰囲気や実際の業務を体験し、より実践的な医療従事者として必要な接遇や専門知識・技術、コミュニケーションを習得する	2 前	80				○	○	○	○		
合計				57	科目		1825	単位時間(		単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
ア. 当該学科の所定の科目をすべて履修していること。		1 学年の学期区分	2期
イ. 卒業基準検定を取得していること。		1 学期の授業期間	15週
ウ. 学年の出席率が90%以上であること。			
エ. 各授業科目の授業回数の3分の2以上出席し、Cランク以上の評価を取得する。			

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。